



家庭と園がつながって

園長 原田 幸子

入園・進級から3か月がたち、1学期最後の月となりました。一人一人が園での生活に慣れ、うれしいときには満面の笑みで、悲しいときには大きな泣き声で、自分の思いを安心して表せるようになりました。帰りの支度のとき、4歳児クラスのAさんが、靴袋が入った学級のかごの前に座って「いらっしゃいませ！」と元気よく声を掛けていました。Bさんが、かごの中から自分の靴袋を探しながら「ください」と言い、靴袋を取り出して持って行きました。Aさんはにこっとしながら、自分の言葉に答えてくれたBさんを見送っていました。何気ない一場面ですが、友達と心がつながるうれしさを感じたようでした。柳町こどもの森が、一人一人にとって自分の居場所として感じられる園となるよう、これからも温かいつながりを育てていきたいと思ひます。

今年、感染症対策を行いながらも行事や活動が少しずつ元通りに行えるようになってきました。5月は親子遠足（年長組は雨天延期となってしまいましたが）、6月はみんなで遊ぼう会を開催することができ、各学年とも親子で体を動かして楽しいひと時を過ごすことができました。園と家庭で協力しながらお子さんの体力向上を支えていきたいと思ひます。学級保護者会では、日常生活の様子を収めた動画や写真をご覧くださいました。4・5歳児クラスの1週間の期間を設けた保育参観では、生活や遊びの様子をご覧くださいました。保護者の方からは「様々な遊びに取り組んでいることが分かりました」「楽しんでいる様子を見ることができて安心しました」などのご感想をいただきました。

さくら和会や修了対策委員の皆様は、園と相談しながら、取り組みを着々と進めてくださっています。6月に開催された同窓会では、小学生が園内スタンプラリーを楽しみ、お父さん・お母さん集合の自主運営の会も秋に楽しいイベントを計画して下さっています。子どもたちのために、豊かな体験や楽しい思い出ができるようにと、お忙しい中ご尽力いただく姿に頭の下がる思ひです。

身近なところでも、気持ちを向けることで楽しさや発見が生まれます。子どもたちの気持ちに寄り添って、一緒に夏の季節を楽しんでみてはいかがでしょうか。

